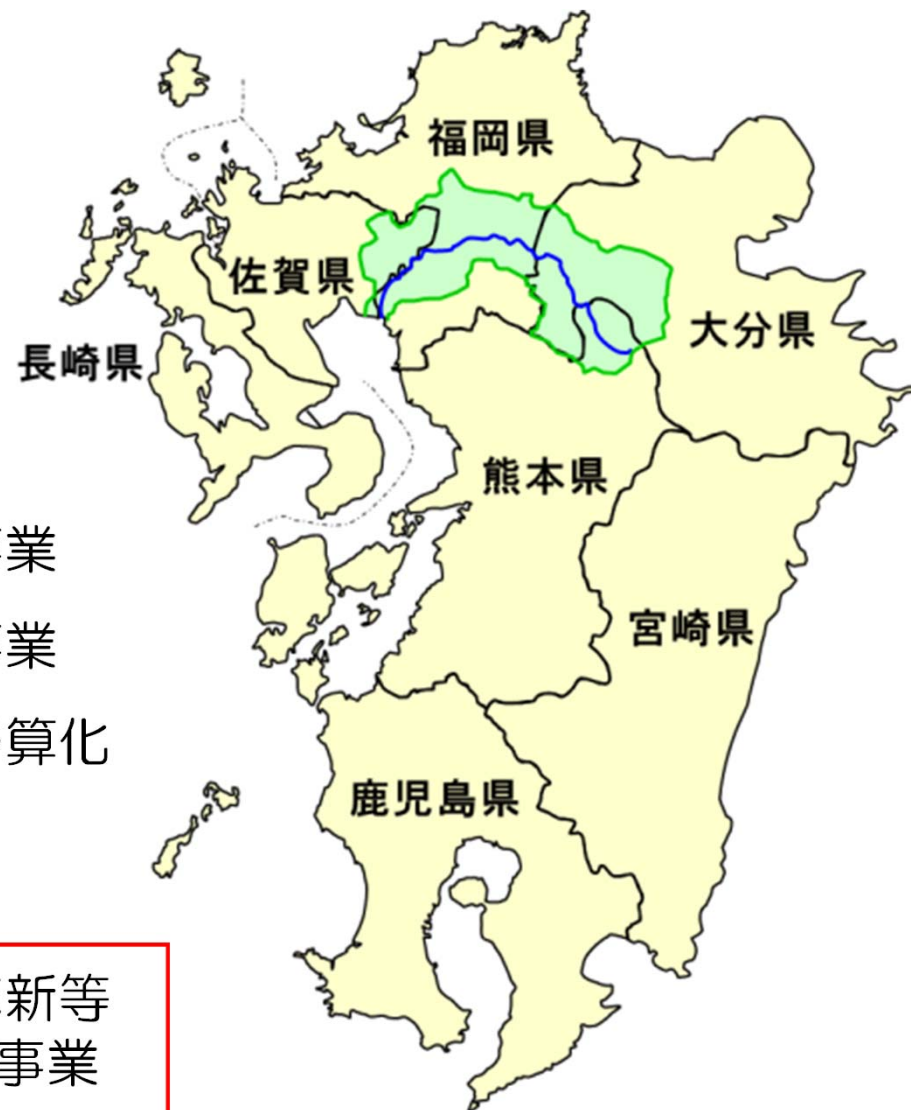


ちくご 筑後川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 筑後川流域の概要〔筑後川の概要と特徴〕

筑後川流域概要図



■筑後川の概要

流域面積 : 2,860km² 流域内人口 : 約110万人 (平成27年3月第10回河川概況調査)
幹川流路延長 : 143km 流域内市町村 : 18市12町1村

■各区間の特徴

＜上流部(夜明ダム～上流端)＞

- ・ 上流部は、日田美林として知られるスギやヒノキからなる森林に恵まれた山間渓谷を形成している。

＜中流部(筑後大堰～夜明ダム下流)＞

- ・ 中流部の巨瀬川合流点から夜明峡谷までの区間は、九州を代表する穀倉地帯である筑紫平野を緩やかに蛇行しながら流下している。
- ・ 瀬、淵、ワンド及び河原等の多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を形成している。

＜下流部(河口～筑後大堰)＞

- ・ 下流部(筑後川下流の筑後大堰から河口までの区間)は、広大な沖積平野及び干拓地の中を大きく蛇行しながら有明海へと注いでいる。
- ・ 国内最大の干満差の影響を受け約23kmに及ぶ長い区間が汽水域となり、河岸には干潟が形成されるなど、有明海特有の環境を有し、有明海固有の貴重な魚類等の生息・生育・繁殖環境を形成している。

1. 筑後川流域の概要〔筑後川の利用状況〕

＜筑後川の利用状況＞

- ◆筑後川の堤防や河川敷では、松原ダム、下釜ダム等の湖面を利用した遊覧船運航や地域交流のイベント、日田温泉、筑後川温泉及び原鶴温泉等の観光地における屋形船、アユ梁、鵜飼い、河川敷や堤防における散策やスポーツ、マラソン大会、花火大会、河川内における水上スポーツ、カヌー等の練習、下流でのエツ漁等、多岐に利用されている。
- ◆筑後川は、住民団体や小中学生による生物調査や水質調査等の環境学習活動の場として利用されており、「筑後川防災施設(くるめウス)」、「三隈川交流センター(朝霧の館)」、「筑後川交流館(はなむね)」などの防災施設を平常時に活用し、情報発信、学習支援及び交流促進を推進している。



湖面を利用した遊覧船（松原ダム）



屋形船（日田市）



散策（うきは市）



筑後川花火大会（久留米市）



環境学習活動（久留米市）

1. 筑後川流域の概要〔筑後川水系の目標〕

＜河川環境の整備と保全に関する目標＞(筑後川水系河川整備計画抜粋)

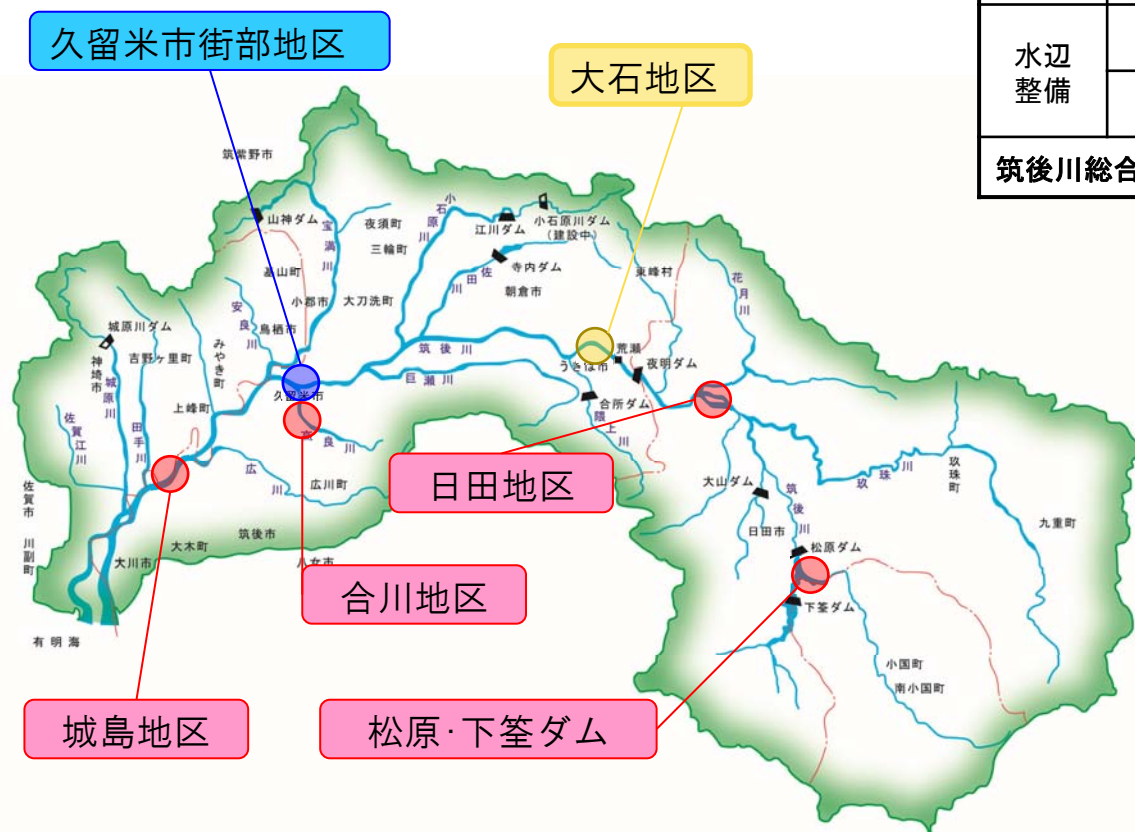
- ◆ 河川環境については、治水、利水との調和を図りつつ、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を保全・再生を目指すこととしている。
- ◆ 筑後川の歴史・文化等の地域特性を踏まえ、周辺の自然や町並み等と調和した良好な河川景観の形成を目指すこととしている。
- ◆ 水質については、環境基準を維持するとともに流域全体で更なる水質の向上を目指すこととしている。
- ◆ 河川空間の利用については、秩序ある利用を維持し、河川の持つ多面的な機能が更に発揮されることを目指すこととしている。

1. 筑後川流域の概要〔筑後川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

今回は、事業継続中の久留米市街部地区と、新規に事業を実施する予定の大石地区の水辺整備について、事業評価（再評価）に諮るものである。

区 分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	城島地区	平成16年度～平成18年度	完了箇所 (H26年度 報告済み)
	日田地区	平成17年度～平成22年度	
	合川地区	平成19年度～平成21年度	
水環境整備	松原・下釜ダム	平成 5年度～平成25年度	
水辺整備	久留米市街部地区	平成27年度～令和 4年度	継続箇所
	大石地区	令和 3年度～令和12年度	新規箇所
筑後川総合水系環境整備事業		平成 5年度～令和12年度	



凡 例	
	流域界
	河川
	市町村界
	完了事業箇所
	継続事業箇所
	新規事業箇所

2. 久留米市街部地区の概要〔継続箇所〕

<目的>

◆久留米市街部地区はリバーサイドパーク基本計画区域となっているものの、**高水敷は雑草が繁茂しており、水辺へのアクセスが困難**な状況であった。そこで、筑後川の広大な水辺空間を活かして地域の活性化や安全安心に寄与し、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全の向上を図るため、**高水敷整正及び管理用通路の整備**を実施した。



【概要】

位置	筑後川右岸 29k600 ～ 31k000付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路
事業費	1.4億円
整備完了年	平成30年度
事業期間	平成27～令和4年度

【工程表】

工種	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
高水敷整正								
管理用通路								
測量設計等								
モニタリング調査等								

2. 久留米市街部地区の概要〔継続箇所〕

＜事業の投資効果＞

- ◆高水敷整正及び管理用通路を整備が行われ、安全で多様な水辺の利用が可能となったことから、継続的な地域の活性化に資するとともに、河川巡視や河川管理の円滑化、河川利用の安全性の向上を図ることが可能となる。
- ◆また平成31年度より、上記の整備を活用し、河川敷地占用許可準則第22による、都市・地域再生等利用区域の指定を目標とする実証実験を対岸の合川地区と連携し実施している。
- ◆整備完了後は久留米市及び地域住民により日常的な草刈りや清掃等の維持管理が行われており、地域の協力体制の下、今後も継続した維持管理が見込まれる。

⇒ 目的とした事業効果が発現されており、現時点において改善措置の必要性はない。
引き続きモニタリング調査等を継続する。



地域住民と活動団体による清掃活動

地域のイベントやスポーツ練習等

整備前（平成23年度）



高水敷は雑草が繁茂し、水際には樹木が密生していることから、安全な河川利用が困難。

整備後（令和1年度）

地域主催のグランドゴルフ大会や伝統行事、グルメ出店などで利用されている。



グランドゴルフ大会



食ブース出店（実証実験）



どんど焼き（伝統行事）

令和1年度宮ノ陣、合川地区における実証実験



筑後川の水辺空間を活用した賑わいづくり実証実験（久留米市の賑わいづくりにつながる活動を希望する事業者を募集）



第2回 River Crew Festival in 筑後川



くるめウスを活用し川遊び・防災学習として水面を利用したEポート

【令和1年度宮ノ陣、合川地区における実証実験実績一覧】

日付	イベント名	参加者数
R1.6.9	バーベキュー	約20人
7.7	バーベキュー	約100人
7.29	カフェオープン	約200人
8.3	川遊び	約20人
9.29	川遊び	約80人
10.13	グルメイベント	約50人
10.22	SUP	約50人
11.16	第2回River Crew Festival in 筑後川	約2,000人

3. 大石地区(水辺整備)の概要〔新規箇所〕

＜新規箇所（大石地区）＞

1) 事業の必要性

◆うきは市では、第2次うきは市総合計画（H28.3策定）において、筑後川をうきは市の恵まれた自然景観、優れた地域資源と位置づけ、筑後川を観光資源の一つとして活用・保全しながら、温泉等の地域資源も生かした「にぎわいのあるまちづくり」に取り組んでいる。

◆中でも大石地区は、筑後川温泉の他、大石堰や大石水神社等の歴史資源を有し、それらの資源を活かしたイベントやお祭り等の実施、河川の清掃等を、筑後川本川及び大石分水路にて推進している。

◆事業対象範囲は、水際の散策、大石分水路でのスポーツや「風あげ大会」などのイベント、筑後川での環境学習等に利用されているが、通路幅が狭く散策や水際へのアクセスが難しい箇所があり、また高水敷の凸凹によりイベントや学習等の安全な利用が困難な状態である。



3. 大石地区（水辺整備）の概要〔新規箇所〕

2) 事業の概要・目的

- ◆「雄大な筑後川と温泉地等を活用した、世代・地域を超えてにぎわうまちづくり」と、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、管理用通路や高水敷整正等を整備していく予定である。



大石地区整備対象全域図（整備イメージ）



整備イメージ（高水敷整正）



かわまちづくり登録証伝達式
（令和2年3月26日）

【概要】

位置	筑後川 58k000～60k200付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	管理用通路、坂路、高水敷整正 等
事業費	6.8億円
整備完了年	令和7年度
事業期間	令和3年度～令和12年度（予定）

【工程表】

項目	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
管理用通路										
坂路										
高水敷整正										
測量設計等										
モニタリング調査等										

3. 大石地区（水辺整備）の概要〔新規箇所〕

3) 事業の推進体制

- ◆平成30年8月に地域住民・うきは市・国土交通省等により構成された「大石かわまちづくり実行委員会」、平成30年11月には、「大石かわまちづくり協議会」を立ち上げ、かわまちづくり計画の検討を進め、平成31年3月にかわまちづくり支援制度に「大石かわまちづくり」が新規登録された。
- ◆かわまちづくり支援制度の登録後も、筑後川の整備方針や周辺の利活用、維持管理に関する協議を継続的に開催する予定としており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。
- ◆令和元年9月からは「大石かわまちづくり作業部会」の企画のもと、筑後川本川及び大石分水路の利活用に係る社会実験として、音楽ライブを中心としたイベントを同年12月に開催し、延べ約2,000人以上の方が来場した。今後も、地域の若い世代の方々や温泉関係者等を加え、地域が連携した、多様な利活用メニューを実践していく予定である。



大石かわまちづくり実行委員会
(平成30年8月～令和2年7月で
第7回まで開催)



大石かわまちづくり協議会
(平成30年11月～令和元年12月で
第2回まで開催)



大石かわまちづくり作業部会
(令和元年9月～令和2年3月で
第14回まで開催)



社会実験（音楽ライブ、ワーク
ショップ、スタンプラリー）

4. 前回評価時からの変化

※大石地区水辺整備の追加

〇うきは市では、筑後川をうきは市の恵まれた自然景観、優れた地域資源と位置づけ、筑後川を観光資源の一つとして活用・保全しながら、温泉等の地域資源も生かした「にぎわいのあるまちづくり」に取り組んでいる。特に大石地区は筑後川・大石分水路を地域のコミュニティづくりの中心となる場として位置付けていることもあり、筑後川と一体となったまちづくりの気運が高まり、水辺整備が必要となった。

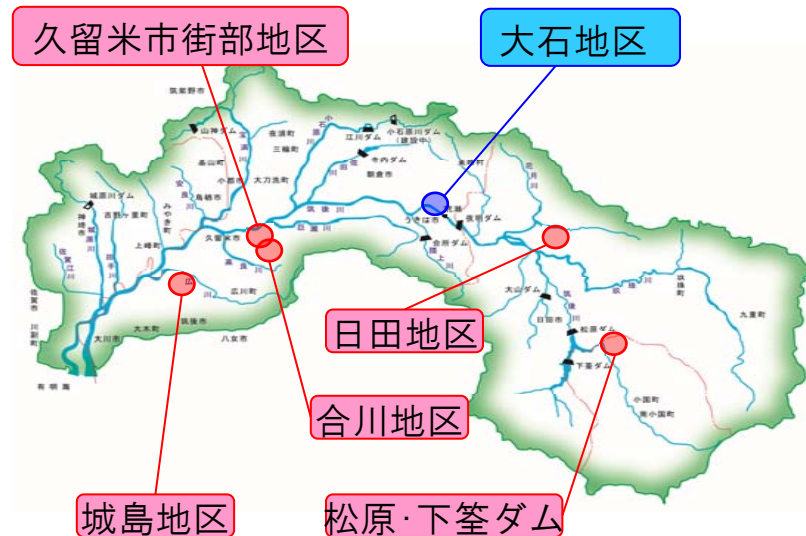
このため、今回大石地区の水辺整備が新規事業として追加された(事業費6.8億円)。

【整備箇所(大石地区)の追加】

＜前回評価時の整備予定箇所＞



＜今回評価時の整備予定箇所＞



：前回と同じ整備箇所

：今回追加した整備箇所

4. 前回評価時からの変化

項 目	前回評価時 (平成29年度)	今回評価時 (令和2年度)	変更理由
総事業費	約56.3億円 【水辺整備】 ・ 城島地区 : 約 1.3億円 ・ 日田地区 : 約 9.5億円 ・ 合川地区 : 約 2.9億円 ・ 久留米市街部地区 : 約 1.4億円 【水環境整備】 ・ 松原・下釜ダム : 約41.2億円	約63.2億円 【水辺整備】 ・ 城島地区 : 約 1.3億円 ・ 日田地区 : 約 9.5億円 ・ 合川地区 : 約 2.9億円 ・ 久留米市街部地区 : 約 1.4億円 ・ 大石地区 : 約 6.8億円 【水環境整備】 ・ 松原・下釜ダム : 約41.2億円	・水辺整備事業の新 規整備(大石地区)に よる事業費の追加、 予定完了年の変更
事業完了年	令和4年度	令和12年度	
B/C	3.0	2.7	
B(便益)	319.4億円	379.8億円	
C(費用)	107.7億円	139.7億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

5. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

＜費用対効果等＞

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	63.2億円	—	379.8億円	139.7億円	2.7
完了箇所	54.9億円	—	310.0億円	129.0億円	2.4
水辺整備	13.7億円	—			
城島地区	1.3億円	高水敷整正、坂路			
日田地区	9.5億円	管理用通路、護岸、 高水敷切り下げ			
合川地区	2.9億円	管理用通路、施設撤去			
水環境整備	41.2億円	—			
松原・下釜ダム	41.2億円	植栽工、保育工、 水質浄化施設、管理用通路			
継続箇所	8.2億円	—	69.8億円	10.7億円	6.5
水辺整備	1.4億円	—	69.8億円	10.7億円	6.5
久留米市街部地区	1.4億円	高水敷整正、管理用通路	51.5億円	2.4億円	21.6
大石地区	6.8億円	管理用通路、坂路、高水敷整正	18.3億円	8.3億円	2.2

	アンケート 実施年度	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計 世帯数	支払い意思額 (円／月・世帯)
城島地区	平成23年度	1,430	156	半径10km圏内	88,337	203
日田地区	平成23年度	1,400	185	半径10km圏内	21,074	322
合川地区	平成23年度	1,440	176	半径10km圏内	83,574	234
久留米市街部地区	平成23年度	1,440	164	半径10km圏内	83,574	216
大石地区	令和2年度	2,000	350	半径10km圏内	25,234	332

5. 事業の投資効果_{〔まとめ〕}

《効果名》

【効果の概要】

① C V M手法による便益の算出：約380.3億円

（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

② 地域資源を活かした教育効果：筑後川周辺の資源（くるめウス、大石堰等）を活かしたイベントや学習会の実施、筑後川と周辺地域を一体的に活用することによる地域への愛着の醸成

P 6、P 7

③ 地域のにぎわいの創出：地域の既存イベントや新たな水辺イベントの開催の場の提供による地域活動の増進

P 6、P 9

④ 治水安全性の向上：河川利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P 6、P 8

⑤ 良好な自然環境の保全：地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動
河川を活用した環境学習

P 6、P 7

⑥ 費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業（B／C）：2.7

継続事業（B／C）：6.5

6. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆久留米市街部地区においては、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、平成27年度に事業に着手し、平成30年度に整備を完成させた。令和1年度以降はモニタリング調査等を実施しており、令和4年度に完了予定である。
- ◆大石地区においては、今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、令和3年度に事業に着手し、令和7年度に工事完了する予定である(令和8年度～12年度モニタリング調査予定)。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆久留米市街部地区では、平成26年8月より地元住民、地元自治体等で構成する「筑後川(宮ノ陣校区)かわまちづくり協議会」が開催されるなど、地域の協力体制が整備されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。
- ◆大石地区においては、平成30年度に設立された「大石かわまちづくり協議会」等により、整備箇所の利活用方法や維持管理の役割分担等について今後も議論していく予定であり、順調な進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆久留米市街部地区の整備内容については、計画段階から「筑後川(宮ノ陣校区)かわまちづくり協議会」において議論を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。
- ◆大石地区の整備内容については、計画段階から「大石かわまちづくり協議会」において議論を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

7. 対応方針(原案)

- ◆ 久留米市では、都市景観の形成、自然環境保全、市民の憩いの場やレクリエーションの場、防災機能等、多様な役割を持つ基幹公園として、筑後川リバーサイドパークの整備を進めており、久留米市街部地区における安全に安心して利用できる水辺空間の整備のニーズが高まっている。このため、国交省では高水敷整正、管理用通路等の環境整備事業を行うものである。
- ◆ うきは市では、筑後川をうきは市の恵まれた自然景観、優れた地域資源と位置づけ、筑後川を観光資源の一つとして活用・保全しながら、温泉等の地域資源も生かした「にぎわいのあるまちづくり」に取り組んでおり、大石地区における安全に安心して利用できる水辺空間の整備を強く要望されている。このため、国交省では高水敷整正、管理用通路等の環境整備事業を行うものである。
- ◆ 整備に対する地域の関心、ニーズは高く、久留米市街部地区では、平成26年8月から地域住民代表、久留米市、国土交通省が参加する「筑後川（宮ノ陣校区）かわまちづくり協議会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、久留米市により実施するものとされ、現在地域による清掃等が進められている。また、大石地区では、平成30年11月から地域住民代表、久留米市、国土交通省が参加する「大石かわまちづくり協議会」を開催し、整備や利活用・維持管理等に関する活発な議論を経て、日常的な施設管理、清掃等については、地域住民、うきは市により実施するものとされている。
このことから、地域の協力体制が整っている。
- ◆ 費用対効果についても確保されている事業である。

以上より、引き続き事業を継続することとしたい。